首都圏以外に初進出

Leaf音楽療法センター

首都圏の介護事業所や障害者施設約80ヵ所で音楽療法サービスを実践しているLeaf音楽療法センター（東京都新宿区）は、今夏、初めて地方へ進出し愛知で活動をスタートさせる。藤井洋平代表取締役に活動内容を聞いた。

藤井洋平
代表取締役

――事業内容は。

藤井　2009年に法人化し、来月で6年目を迎えます。現在、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県の民間介護事業所をメインに音楽療法サービスを提供しています。当初私のみで始めた事業ですが、現在は25名の音楽療法士が所属しています。今夏から、首都圏を初めて飛び出し、愛知県にある有料老人ホームでサービス提供を開始します。

――昨年と比べ契約事業所数も音楽療法士の数も増えているが。

藤井　事業所数を増やすことも重要ですが、それ以上にサービスの質を重視しています。当センターのサービス料金は、12ヵ月で1万2600円（交通費別途）から。有償ならではの質をお届けします。ボランティアや個人による音楽療法は質にばらつきが出てきますが、組織化していると質が一定化してきます。当センターは年間契約で、現在更新率はほぼ100％です。

▶楽器演奏を披露する様子

――印象に残っているエピソードは。

藤井　ある老人ホームに、自分の物を盗られたと妄想する入居者がおり、他の入居者となかなか馴染むことができていませんでした。そこで、音楽療法を通し、楽器演奏や動作などの役割を与えることでコミュニティが形成され、次第に他の入居者とコミュニケーションを図れるようになりました。認知症を治そうとするのではなく、もともとの能力を発揮させ、コミュニティ形成を手助けすることが音楽療法の強みです。

――本を出版したようだが。

藤井　当社初となる本「音楽療法のプロが教える　高齢者のかんたん！音楽レクリエーション」を今月15日に出版しました。福祉施設の介護スタッフを対象とした本で、音楽療法で用いるアクティビティを紹介しており、音楽療法士である私が監修しています。オールカラーでわかりやすい図解と説明に加え、脳科学を専門とする医学博士による解説を収録しています。楽器がなくても特典CDを使用することで誰でも簡単に取り組める実用的な1冊です。予算が厳しくプロの音楽療法士を雇えない施設のためにノウハウを提供しようと思い、出版しました。この本により、音楽療法そのものに興味を示してもらえたらと思います。

――今後の展望は。

藤井　いいものにはお金をかける風潮が強くなっています。当社は音楽療法士の職能団体として、療法士を全面的にサポートし、その道1本でも生活が成り立つよう事業を確立していきたいです。

▶オールカラーで見やすい

家族の負担に救いの手

日中福祉交流コーディネーターが見る 上海福祉の今

wq ビズプランニング代表　王　青

プロフィール
中国上海市出身。1989年留学のため来日。語学学習を経て大阪市立大学経済学部卒業。95年より日本企業介護福祉関係部署に勤務。上海市民政局や、上海市障害者連合会などとの長年の親交があり、上海市と日本の介護福祉分野の交流・ビジネスを支援してきた。2002年7月フリーに。福祉分野を中心に日中のコーディネーターとして活動中。市場調査、マスコミ取材、ビジネス支援、視察企画など多くの案件を実現してきており、上海福祉分野に関しては第一人者である。

第30回　ショートステイの誕生と中止①

介護者が願う「息抜きサービス」

「喘息服務」、一見何のことかわからない人が殆どでしょう。中国語で「ショートステイサービス」という意味で、漢字の通りで「喘ぐ」、つまり「息抜きサービス」をいいます。

上海市内に住む60代の男性、黄さんの母親は9年前に脳梗塞になり、認知症を患うことになってしまい、身体が不自由になってしまったため、黄さんが母親の介護をしてきました。毎日介護に追われ、自由な時間がなく、自分の生活を失っていました。

黄さんは「何度もすべてを投げ出し、逃げたくなった」と話すが、「今はこれまで大事に育ててくれた母親の恩返しをする時だ」と自分に言い聞かせて、9年間頑張ってきました。

上海市の戸籍人口は1443万2340万人のうち、65歳以上の人口は25万6630万人と総戸籍人口の17・9％を占め、上海市の高齢者人口率は、国内で最高で、昨年は、2012年に比べ1万1360万人（4・6％）増加しました。

政府が年々施設のベッド数や、在宅介護の対象者を増やしても、高齢者の人口増加に追い付かない状態が続いており、政府は施設を建設するより、地域介護のほうが財政的負担少なく、介護スタイルも多様なため、数年前から90％の人は家庭で老後を過ごし、7％は在宅介護、3％は施設介護で過ごす「9073」という政策モデルを掲げています。

◆　◆　◆

「自宅で老後を過ごす」ということは、黄さんのように家族による介護が行われているため、介護側がクタクタに疲弊し、体力・精神面で追い詰められ、うつ病になった人も少なくありません。黄さんはあまりに疲れているときは、近所の人に頼み、母親の面倒を見てもらったりしました。わずか数時間だけでも、息抜きができ大いに助かったと言います。

このような状況を考慮し、上海市政府は一年半前から「喘息服務」（ショートステイサービス）を実施するようになり、高齢者が住む地域の社区（コミュニティ）にある施設に一定数のベッドを確保し、黄さんの母親のような高齢者を短期間入居させる取り組みを始めました。

該当する家庭はまず所管の「在宅介護サービスセンター」に申請します。社区ごとにことなりますが、申請が通れば、最短7日間最長2週間で入居が可能です。料金はその施設の月額料金の日割りより少し高めで、施設短期入所以外に、訪問介護サービスも提供します。また、デーサービスもこのような家庭のための枠を作り、昼間に通ってもらい、リハビリプランなどを作ります。

また、上海市最大の区である浦東新区が昨年区内に住む600の高齢者世帯に対してアンケートを行った結果、家族の手で介護している多くの家庭は、切実に「喘息サービス」を希望していることがわかりました。

このような政府の試みに対して、専門家は、政府の役割を一部代行している地域の政府機関は今後、要介護者だけではなく、介護側の家族の支援も必要だと言います。家族が継続して介護を担っていけるように、彼らが息抜き・リフレッシュできるような環境創りが必要であるとの見解を示しています。また、現状の政府の方針については、評価しつつも、各区で規定が異なったりするなどのバラつきが生じているため、評価システムや、日数・料金規定など、法律的な制度を整備しなければならないと指摘しています。

（次回に続く）

28日セミナー開催

ザオバ

リハビリ用のトレーニングマシンなどを販売するザオバ（千葉市）は今月28日、大阪南港ATCエイジレスセンターの特設ブースにて「介護ビジネスセミナー～介護保険法改正後の新ビジネスモデルを探る～」を開催する。

このセミナーは、同社が今月より販売を開始した5機種のリハビリウェイトマシン「C－BODY」の発売を記念して行われるもの。

◀大阪南港ATCエイジレスセンターの特設ブース

講師は、デイサービスの活性化や新コンセプトの総合型介護施設のプロデュースなどを行テラスの本田新地テーマは来年4月た介護保険法改正ての最新情報と改新しいビジネスモについて。

時間は14時から分までの90分。セ後はマシンの体験こともできる。定名で費用は無料。

「真の自立」を模索

スウェーデン研究講座

スウェーデン社会研究所（東京都葛飾区）は第160回スウェーデン研究講座「スウェーデン～高齢者と障害者はどこまで自立できるか」を4月16日に開催し、視覚障害者でもあるスウェーデン・クオリティケア（スウェーデン）のイヤミル・オストベリ教育マネージャーが登壇した。

前半は、障害者ケアの現状について説明。「障害者が施設入所やデイケアサービスの利用に満足していた状況は過去の話。最近ではスポーツや就労など、様々なことにチャレンジしたいという自立意識の高まりから、在宅での自立支援サービスを求める傾向にある」と指摘した。

そのひとつとして注目されているのが「パーソナルアシスタント」と呼ばれるサービスで、「必要に応じて好きな時に好きなことをできる援することが、本味での自立」とい から整備された社だという。

また、「重度障グループホームで活をする人が多いがソナルアントをつ人で住むというケーえておりな例では隣にいる支援も説明し、の希望をっていきため、国まで支援のかが課と指摘し

この立の可能める背

「統合教育」への高まっており、軽者の家族は、子別学校ではなく、校の特別クラスという例が増加という。